

破天荒

教宣部

4940号

2013年

3月22日

化学一般京滋地本
全竹中労働組合



矛盾

— 言っていることが一致しないこと —

昨日、春闘2回目の団体交渉を行いました。ベースアップは検討の余地もない。最低賃金も検討の余地もない。裁判員休暇はトップの考え方で無給。雇用延長は次回に会社の改定(案)を提示、といった内容でした。

賃金と業績

今年「現状を守っていくことで精一杯」と12年連続ベア「0」の流れです。会社は三社揃って好調な業績を持続していることが本人給改定の条件と発言する一方で、業績は一時金に反映させるとも発言しています。また、賃金を含めた総労働条件が世間データ比で劣っていない

いこともベースアップできない理由としています。賃金は生活していくための基盤です。業績が良くない時でもアップの検討をしていくことは必要です。物価上昇、インフレ率2%となった時には、従業員の生活を守るという姿勢をベアという形で見せてもらいたいと思います。

最低賃金

会社の設定基準が京都府の電気機械器具製造業の最賃をベースにしているとして、時間給835円です。昨年より10円アップです。パートの賃金は10円以上アップされます。要求は企業内最賃1000円(計画的)でしたが、全く検討していないと残念な答えが返ってきました。

裁判員休暇

世間データ比較を理由に賃上げはできないとされていますが、裁判員休暇は世間の9割以上で有給扱いとされている制度です。世間を見るなら竹中でも有給扱いとすべきです。また「ノーワーク・ノーペイ」を理由にするなら特別休暇は全て対象になります。なぜ裁判員だけ無給になるのか理由が不明です。神様の言葉は絶対ということですか。裁判員に当たってしまった従業員の立場になってもらいたいし、従業員が国民の義務を果たすことも企業として応援してもらいたいと神様に訴えます。

「八重の桜」と京都

今年のNHK大河ドラマ「八重の桜」は、今までの幕末の歴史を敗れた側から描き、また会津藩と京都の結びつきの深さにも触れ、見ていて新鮮さを覚えます。

私が身近に感じるのは、今ドラマの中で会津藩が京都守護職の本陣を置いている金戒光明寺。このお寺は高校生の頃学校が近かったのでよく行ったところで、広い敷地で気持ちの良い場所です。ここに会津藩士千人が駐屯していたとは…。またこの寺で新撰組結成の場面も出ていました。

賃上げの歴史

今から40年近く前(組合結成時)の賃金は、平均年齢29歳で約10万円程度の低い額で、化学一般の前身であった化学同盟の最低賃金ラインの下で、また同一年齢で5万円もの差があるひどいものでした。それから正を行い10年後に、各年齢でバラバラ

だった賃金格差を無くし右肩上がりの一本のラインにもっていかれました。その後15年間は毎年1万円を超える賃上げを行いました。しかし、2002年から賃金構造維持分(春になれば、一年上の先輩の賃金と同じになる)の金額

(約5千円程度)の回答が12年間続いています。その結果、化学一般標準者賃金と比較すると、基準内賃金で単純平均で約3万7千円低い結果となっています。

このドラマを通して京都の歴史を再認識できたらと思っています。

お知らせ

京都水族館に行こう

5月18日(土)

- ・参加費 1000円
- ・弁当・飲み物付き
- ・詳しくは、杉浦まで

春闘3次団体交渉

3月28日(木)